

第2節 さまざまな活動に関わって思うこと

大西政寛

はじめに

本稿は、北九州市で生まれ、育ち、働きすごした40年を、個人としての「趣味の活動」や「まちづくり活動」、地域住民としての「地域活動」、そして職業人としての「市職員」と、それぞれの立場でのさまざまな経験をふりかえり、「地域づくり」の視点で、考え、まとめたものです。

Ⅰ 北九州市に暮らす市民として——参加するきっかけ

1 はじまりは、「好きなこと」

映画を観ることが好きで、小学4年生の頃から、何を見たか記録を始め、高校の頃は学校でのビデオ上映会の企画・実施や、感想の新聞投稿などをしてきた。就職後、最初の職場で北九州映画サークル協議会に誘われ、入会。上映作品の選考、会のPR、上映会での挨拶、合評会の司会等を行う。既存の組織での活動のカタチを学ぶ。

2 人とのつながり（人の輪）は、限りなく

- (1) 北九州映画サークル協議会で出会った友人から誘われ、小倉祇園太鼓のチームに参加。このチームの起こりは小倉の酒場で若者が「子どもの頃は町内で出てたけど、今は参加するきっかけがないねえ」という会話から、有志がツテで山車、太鼓を用意して参加したことにはじまる。町内でも企業でもない山車のさきがけ。一から始めるということを知り、行政・企業の支援なしの自立した活動を学ぶ。
- (2) 同僚より「福岡県青年の船」を紹介され、参加。訪問先は中国・韓国で、中国の天安門では、天安門事件後初の団体客だとの説明を受ける。さらに「青年未来塾」事業に誘われ、参加する。これは20才代の青年がまちづくり活動をプロデュースするというもの。2年コースで前1年講習、後1年イベント実施。さまざまな人とのネットワークが出来る。

3 家族で広がる輪～子は地域をつなぐ

- (1) 妻が少林拳武徳会の師範なので、子どもとともに習う。
- (2) 子どもが幼稚園生の頃、父母の会活動に参加。夏祭りを充実させるための準備から実施までの過程で、「みんなが楽しめるように」、という目標設定のありかたと協力の大事さを学ぶ。小学生の頃は、得意分野（太鼓の指導、レクリエーションの実施等）でPTA活動に参加。教育について考える。

4 まとめ～参加するきっかけ

- (1) 趣味の分野であれば、誰でも入りやすい。

- ＜必要なこと＞ － 活動団体や内容の情報提供、お誘い（声かけ）
- (2) 子どもを持つ人の全員参加としてのPTA活動
- ＜必要なこと＞ － 活動内容の広報、参加しやすい親子参加型イベントの実施
誰もが活動に必要とされること（力があるとか、技術があるとか）
- (3) 絶対に参加しなければいけない活動は貴重
- ＜例＞ － PTA活動 … 地域としては新たな人材の発掘となり、当事者としては地域参加のきっかけとなる。

II 市職員として—今までの活動内容が仕事と関連していく

1 教育委員会（松本清張記念館、青少年課）

- (1) 松本清張記念館開館準備と運営に携わり、企画立案・実施を行う。来場者や企画実施時の希望者の気持ちに応えることの大事さを学ぶ。
- (2) 青少年課では、学校週5日制に伴う社会参加活動の充実として、また社会体験活動による生きる力を育む事業として青少年のボランティア活動の窓口「青少年ボランティアステーション」の開設を担当する。すべての活動には、活動する場が必要なことと、社会と教育の協力体制の大事さを学ぶ。
- (3) 青年層の社会参加の促進として、青年まちづくり隊事業を行う。青年層の意欲を引き出す方策について考える。学齢期において自己実現の経験が大事であることを感じる。
- (4) 地域との連携を行う中で「公民館」が「市民福祉センター」に変わる。日曜日が閉館になるケースなどから、市の姿勢が生涯学習よりも保健福祉重視であることを感じる。自己実現よりも生命の安全を取るの道理だが、社会の成熟度が下がっている点に危惧を覚える。

2 小倉南区役所まちづくり推進課

- (1) 区役所は、本庁の各業務担当部署と市民センターとの間にあって、両者をつなぎ事業目的を円滑に達成するようコーディネートする役割を担っているが、どこまで出来ているか考える。
- (2) 区役所窓口が本庁の各業務担当部署と連動した縦割りのため細かく分かれており、市民にわかりにくい。さらなる連携・効率化が可能。
- (3) 市民の生活圏は区のエリアで収まっているとは限らない。そのような区域を越える部分は市エリアで対応すべきだが、区エリア・市エリアの懸案がそれぞれで対応できているのか考える。

3 まとめ～市職員として感じた問題点

- (1) 活動の場はあるのか
- 人材育成事業は、育成はするが活動の場は各自まかせにされている。活動の場まで視野にいれた事業構成が必要であろう。
- (2) 情報は届いているか
- どのような企画をしてもそれを知らない人はいる。有効な情報伝達（広報）手段を検討

する必要がある。

(3) 市民の求めている行政が行われているか

施設利用の不便さや、接客サービスの苦情などの声が絶えない。市民の目線にたった行政活動が必要である。

(4) 職員は、適材適所に配属されているか

コミュニケーションがうまくない職員が市民対応業務を担当する例や、担当業務に関心を持たない職員の無気力な企画・運営などが見受けられる。

III 市民として思うこと

1 市の役割として求めるもの

(1) 財産を生かした施設の活用

市民センターの土曜・日曜の活用や、利用時間の柔軟化、スポーツ振興を図る上での体育館の活用、ひいては教育施設の有効利用を行うべきである。基本となる考え方は、有効な利用であれば24時間365日使用可能という意思表示をすべきである。

(2) 組織力を生かしたコーディネート + 信頼性を生かした広報

市の組織力を生かし、市民活動サポートセンターのような情報ステーションを充実し、情報発信を充実すべきである。

2 みんながこうだったらと、思うこと

(1) “暮らしの充実は自己実現から”をモットーに生涯学習活動を行う。

(2) すべての人が必要とされ、求められているという実感の持てる地域活動を実施する。

IV おわりに

1 こういう“まち”であればと思うこと

- ・ひとりひとりが、自分の意思を持ち、考える
- ・みんなが喜び合えるまちづくり
- ・適材適所で、出来ることを出来る人が、無理なく活動する仕組みづくり

2 さいごのメッセージ

- ・人は人の中に生きている（ひとりではない）
- ・大事なのはコミュニケーション。「聴く力」「伝える力」そして、わかり合える喜び
～今後とも考えていきましょう～

自己紹介

大西政寛（昭和42年2月生まれ、八幡西区生まれ、現在小倉南区に居住）

高校卒業後、北九州市役所に入職。配属先は、小倉北区役所課税課⇒財政局課税課⇒病院局医療センター⇒教育委員会文化部（松本清張記念館）⇒教育委員会青少年課⇒小倉南区役所まちづくり推進課

【こんなことしました～地域活動編】

- ① 「北九州映画サークル協議会」 会員（昭和60年9月～現在）
※この団体は、映画の自主上映を行う団体。毎月、世界の幅広い国の作品を、35ミリフィルムで上映する。会員約800名〔現在一会員、過去に運営委員を1年経験〕
- ② 北九州シネマ研究会（平成14年4月～平成18年9月）
J：COM北九州の映画紹介番組“シネマDE北九州”のシネマナビゲーターとして出演
- ③ 小倉祇園太鼓（文月馬鹿山車）（昭和62年～現在）
町内と企業チームのみの参加だった小倉祇園太鼓に、有志で結成した団体として参加するというカタチのさきがけとなったチーム。（昭和60年頃結成）〔過去に酒係、会計係、指導係、連絡係を担当〕
- ④ 福岡県青年の船 乗船（平成2年）
一般団員として乗船 訪問先・・・中国、韓国
- ⑤ 北九州青年みらい塾（平成9年～現在（中断あり））
平成9年、教育委員会「青年未来塾事業」4期生として参加
- 妻の活動で、自分も若干の関わりのあるもの
「少林拳武徳会」「田原小学校PTA」（自分も父親委員会に参加）「田原校区まちづくり協議会」

【こんなことしました～仕事編】（関わったもの）

医療センター／クリスマスコンサート、松本清張記念館開館直前準備から開館後の運営担当、学校週5日制PRビデオ制作委員、青少年ボランティアステーションの開設、成人祭2004、2005担当、市政40周年記念事業「ドリームキューピット」「ストリートライブIN北九州」、青年まちづくり隊事業「北Q王決定戦」「北九州空港開港記念ウェルカムボード」、まつりみなみ2005、2006 等

（北九州市小倉南区役所まちづくり推進課）